

都道府県別賞一等

未来に架け渡す橋 生命保険

栃木県 白鷗大学足利中学校 二学年

阿部 珠々南

私の両親は会社経営をしている。会社経営をする前までは、公務員をしていた。公務員は、仕事が忙しくても身分が安定していて、私は安心して生活していた。ところが、四年前、祖父の会社を両親が継がなければならなくなった。祖父が高齢で、そこで働く社員さん達の生活を守るためのことだった。私の両親は、経営者になることにとても不安だった。毎晩、どうやって良い会社経営ができるか話し合っていた。ある時、私は両親の話に耳をすませると、私と姉の将来のことだった。もし両親が病気やケガをした場合、組織の保障がなくなるので、大学卒業まで満足できる教育ができるだろうかということ話を話していた。私はその話を聞いた時に、不安になった。今までは安心していたのに、後ろに支えがなくなるからだ。私にはデザインの仕事があったという夢があるのに、もしもの時、それができなくなるのだろうかと思ってしまった。お金が足りなかつたら、この家を売らなければいけないのかと思ってしまった。できれば、前のように、両親には保障があり、安定した公務員でいてほしかったなと思った。

それからしばらくして、知り合いの紹介で保険会社の方にお会いすることがあった。父や母だけでなく私や姉の名前が書いてある「生活設計表」を見せてもらった。そこには私と姉が何歳で高校、大学を卒業するか、そして何歳頃で結婚するかが書かれており将来を見通せる分かりやすい表であった。この表を見ると、人生は長いようで短いのだなと思った。そこから、人生は一年一年大切に生きていかなければいけないのだなと感じた。そこで父は、保険会社の方と握手をした。父は、笑顔で私と姉に言った。

「この先何があっても、生命保険があるから心配はいらないよ。安心して行きたい学校を選びなさい。」

と言っていた。母は、
「これは何かあった時のプレゼントだね。ハハハ。」
と笑っていた。

あんなに心配して話し合っていた両親が笑顔になっていて、また姉も嬉しそうだった。私は、その家族の嬉しそうな顔を見て、なんだか私も嬉しくなった。私もみんなもホッとしたのだなと思った。

その後、両親は心配がなくなっいきり経営ができています。姉は、今年大学受験で自分の行きたい大学を目指して頑張っている。私は、生命保険は自分のやり

第62回中学生作文コンクール

たいこと、行きたい進路につなげてくれる「橋」だと思う。大人も子供にも、とっても大切な橋だと実感できた。

私の数年後、大人になった時に、いざという時に備えて生命保険に入り、自分の稼いだお金で保険料を払いたいと思う。それができた時に、大人になったなど実感できるだろう。また、私がもし結婚し、子供ができたなら、結婚相手や子供にも生命保険の大切さを説明して、しっかりとした保険に入りたい。そして、家族みんなが遠慮をすることがなく、やりたいことに専念できるようにしたい。もし、先に不安を抱えている人を見かけたら、「生命保険」という手段も教えていきたい。